平成25年度義務教育段階での学習内容の確実な定着のための研究事業実施報告書
（中間まとめ）

学校番号	8	学校名	県立熱海高等学校
対象課程・学科・学年		全日制の課程・普通科・１学年	

1　研究のねらい

(1) 義務教育段階の学習内容の学び直しを行い、定着を図り、高等学校段階の学習を行えるようにする。その結果、生徒のキャリア発達を図ることができる。

(2) 義務教育段階の学習内容の定着を図ることにより、学習意欲の向上や、生活態度を改善させ、充実した学校生活を送らせる。

(3) 本研究の成果を本校だけに留めず、他校への還元を図り、義務教育段階の学習内容の定着が不十分な生徒に対する指導の充実を図る。

2　研究の概要

本研究は「平成23・24年度高等学校教育課程等編成研究事業」における義務教育段階の学び直しの指定研究の継続研究である。

(1) 平成23・24年度の研究成果と課題

本校生徒の義務教育段階における学習内容の定着は不十分であり、高等学校段階における学習内容の定着に支障をきたしている。そこで平成23・24年度に上記研究事業において、学校設定教科・科目「キャリアップ」を１年生の教育課程に位置付け研究を進めてきた。生徒の実態に合わせ、義務教育段階の国語・数学・英語の学び直しだけでなく、一般常識の学習も取り入れ、生徒個々の理解度に応じ、一人で学習が進められるプリント学習とし、全教員で指導に当たった。その結果以下の成果と課題が明らかとなり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る指導方法の確立が求められた。

ア　成果

(ｱ) 生徒は自分のペースで取り組むことができ、学習内容に対して「分かった」という達成感を得ることができた。

(ｲ) 複数の教員で担当することにより、きめ細やかな指導ができた。

(ｳ) 全教員が指導に当たることにより、生徒の実態を共有することができた。

(ｴ) 学校が落ち着き、退学者が減少した。

イ　課題

(ｱ) 内容及び量に妥当性のある教材プリントの作成

(ｲ) 定着が十分な生徒と不十分な生徒に対する指導方法

(ｳ) 必履修科目における、「キャリアアップ」との関連性を考えた指導方法
(ｴ) 生徒の取組状況に応じた指導方法

(2) 本年度以降の研究方法

「キャリアアップ」を継続実施しながら、定期的に全教員で会議を開き、課題や解決策を検討する。その際、特別支援教育の視点も踏まえる。

対象学年：１年生
単 位 数：２単位
会議頻度：月１回程度
検　　証：記述式アンケートを各学期末及び年度末に実施、基礎学力到達度検査を４月と年度末に実施

(3) 期待される成果及びその検証方法

平成 24 年度に実施した「キャリアアップ」に関する生徒のアンケート結果から、生徒は学習に対する意欲や達成感を得ていることがわかった。本研究のねらいを達成するために一層の改善を図り、問題を解決することにより、義務教育段階における学習内容の定着を図り、キャリア発達を促すことができる。

検証には、生徒の記述式アンケート及び数値的な検査等を用いる。

3　実施日程及び内容

25 年４月　教員対象のガイダンス
　　教材プリントの形式変更
　　基礎学力到達度検査の実施
　　「キャリアアップ」の授業開始
　７月　１学期の振り返り
　　研修会（特別支援教育の視点に立った「キャリアアップ」の進め方）
　９月　学校教育課高校教育室指導主事訪問
　12 月　２学期の振り返り
26 年１月　公開授業の実施（参観者 22 名）
　２月　１年間の反省
　　基礎学力到達度検査の再実施（４月と同じ内容）及び分析
　３月　検証及びまとめ

＊担当者間の打合せや教材プリント作成は随時実施

4　実施上留意した事項

・新任教員に対する「キャリアアップ」の趣旨の浸透
・前年度までの研究において課題となった箇所を修正しながらの授業の実施
・「キャリアアップ」の趣旨等について、生徒及び保護者への理解と地元中学生への浸透

5　研究の成果

平成 23・24 年度高等学校教育課程等編成研究事業における成果に加え、次のような成果が確認できた。

・「キャリアアップ」が役に立っていると考える生徒は 80%を超えている。
・年度当初と終わりに実施した基礎学力到達度検査の結果、国語で 90%、数学で 70%、英語で 90%の生徒において点数が上昇した。
・理解の進んでいる生徒が、進んでいない生徒を教えるという学び合いができた。
・県内のいくつかの高校において、本校作成の基礎学力到達度検査を活用するなど、他校への還元が図られた。
・「キャリアアップ」の趣旨が地元中学生に浸透し、本校への志願者が増加した。

6　実施上の課題及び解決策等

(1) 平成 23・24 年度高等学校教育課程等編成研究事業における課題への対応

ア　内容及び量に妥当性のある教材プリントの作成

・プリントの問題数を減らし、同程度の難易度のプリントを複数枚用意した。
・解答欄を大きくしたり、罫線を引くなどして解答しやすくした。
・特に一般常識の教材プリントにおいて、国語、数学、英語以外の教員による問題チェックを行った。

イ　定着が十分な生徒と不十分な生徒に対する指導方法

・定着が不十分な生徒に対しては国語、数学、英語の教員が巡回し、個別指導を実施した。
・定着が十分な生徒には、より発展的なプリントを用意した。

ウ　必履修科目における、「キャリアアップ」との関連性を考えた指導方法

・国語、数学、英語の必履修科目の授業担当者が定期的に生徒個々のファイルをチェックし、どの程度まで理解が進んでいるのかを確認し、それを踏まえて必履修科目の授業を行った。

エ　生徒の取組状況に応じた指導方法

・毎時間及び毎学期末に、授業の振り返りプリントに記入させた。
・気になる生徒の情報共有を行い、取り組みが不十分な生徒には個別指導を行った。

(2) 平成 25 年度に確認できた課題

ア　生徒の自己評価をベースに評価・評定を行っているが、教員の評価をどのように組み入れるか。

イ　一般常識の問題が専門的すぎる。

ウ　基礎学力到達度検査の点数が上昇しなかった生徒に対する指導のあり方

(3) 解決策

課題に対する解決が不十分なため、次年度以降も継続的に研究し、解決を図る。

7　考察

本校生徒の多くは「キャリアアップ」の授業を通して、学習に対する意欲や楽しさが身についてきている。分からなかったことが分かるようになるというのは、生徒たちにとって大きな喜びであり、キャリア形成を促し、人間的な成長に繋がっていく。

理解の進んでいる生徒が、進んでいない生徒に教えている姿を「キャリアアップ」の中でよく目にする。自分が理解していなければ教えることが出来ず、分からなかったことが分かるようになったからこそ、上手く教えることが出来る。双方の学習意欲の向上に繋がり、生徒の成長する場面となっている。

１学期末、２学期末、学年末における３回の生徒アンケートの結果、「キャリアアップ」の授業がためになっていると回答した生徒は 80％と多い。また、50％以上の生徒が必履修科目の理解に役に立っていると考え、中学校時代と比べて 40％以上の生徒が家庭学習の取組が良くなったと回答している。また、基礎学力到達度検査の結果、国語、英語で 90％、数学で 70％の生徒の生徒において点数が上昇した。点数が上昇したのは「キャリアアップ」の授業だけによる成果とは言えないが、基礎学力の定着に本科目が役立っているのは確かである。教員に対するアンケートにおいても、「キャリアアップ」が基礎的･基本的な学力を身に付けさせるのに効果的であるとの意見が多い。

本科目は、県内の数校が基礎学力到達度検査を活用したり、他県の高校が視察に来るなど、関心が高い。１月に実施した公開授業には、高校だけでなく地元中学校からも参観者があった。ある中学校長からは、「キャリアアップ」を、研究ではなく継続して設定して欲しいとの意見があり、本校を訪問した熱海市の教育委員からも同様の意見があった。さらに、 約２年間本科目を実施していることから、地元の中学においても本科目の趣旨が浸透し、入学志願者の 90％以上が志願理由の一つとして「キャリアアップ」の授業を面接時にあげている。

義務教育段階の学び直しの科目は、本校及び本校と似たような学校にとって、必要である。授業を実施して２年が経ったが、次年度以降も改善を図りながら更に効果的な授業方法を見つけ出し、継続的に研究を進めていく。